

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツそよ風(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	平成23年10月18日	評価結果市町村受理日	平成24年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690800012&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフが支援することにより、残存機能を維持できるように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは東福寺のすぐ近くにあり、地域に溶け込み木造りの穏やかな佇まいをしています。「利用者の尊厳を大切に、利用者一人ひとりの生活がゆったりと自然に送れる様、地域に開かれた場所になります」と理念に謳い、職員同士のチームワークで支援を展開されています。利用者は穏やかに過ごされており、管理者は利用者がそれぞれに役割を担う事で責任を持ってもらえる様、コミュニケーションをとり出来ることを見分けるように職員に働きかけています。地域の自治会と合同で避難訓練を行い、ホームが地域の高齢者の避難場所になっているなど、短期間で地域の方々と良好な繋がりが築かれています。看取りの指針を示し、家族の協力を得られればその方向に持っていける体制が出来つつあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に参加者全員で、理念を唱和し、共有・確認し、理念に基づいた支援を行っている。また利用者様を地域から孤立させることなく「共生」を目標にし、地域社会の一員として生活して頂けるよう努めている。	利用者の尊厳を大切に、ゆったりとした生活が送れること、人とひとの触れ合いを大切に地域に開かれた場所にと理念を掲げています。理念通りのケアが出来ているか、利用者、職員、地域との共生が出来ているか、行事が理念に沿っているかなど会議で振り返り確認し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や利用者様と一緒に回覧板を届けている。地域の古紙回収にも協力している。近隣へ買い物に行き、地域の方々と交流を持っている。センターでの催し物に、地域の方々にも参加して頂けている。	地域の方々とは気軽に挨拶を交わし、加入する自治会から情報を得て敬老会や地藏盆等に参加しています。ホームの4周年記念の秋祭りや、認知症サポーターの講習会などには多くの住民の参加があります。また地域の小学生がデイサービスに職場体験に来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へ積極的に参加。またそよ風の行事への招待等交流を持っている。地域の方々からお声をかけて頂いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、ご意見等を職員一同把握し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族、地域代表、老人会役員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。行事や状況報告を行い、参加者からは看護学生の受け入れ等の提案があるなど有意義な会議になっています。出された提案はサービスに繋げるよう職員間で検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を利用者様と一緒に区役所へ提出しに行っている。	区役所には運営推進会議の議事録を届け、区の施設連絡会に出席の折には情報交換を行うように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が設置されている。また勉強会も実施し理解を深めている。	事業所内で身体拘束をしないケアの勉強会を行っており、報告書などは回覧し欠席者にも伝え理解を深めています。玄関前は交通量が激しく危険なため施錠しており、入居時に家族に説明し理解を得ています。帰宅願望の強い方には職員と一緒に出て拘束感を与えないように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施。入浴時等さりげなく身体の確認を行い、日々注意を払っている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に話し合いの場は持っていない。今後勉強会等を実施し知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、原則2名体制で対応し、十分な時間を取り、質問等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。また、運営推進会議や家族交流会、ご面会時等に、ご意見やご要望をお聞きする機会を持っている。	家族の来訪時には意見や要望を聞くようにしており、運営推進会議や家族交流会など家族との交流機会が多く、意見が出やすい環境作りをしています。食事のメニューを知りたいとの要望があり、早速メニューを張り出し知ってもらう等職員間で検討し迅速に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・GH会議・ユニット会議時等、センター長や管理者と直接話しが出来るような雰囲気作りを心掛け、日頃からコミュニケーションを取るように努めている。また定期的に面談も持っている。	フロア会議、グループホーム会議等では職員が書記を持ちまわりにし、食事の提案や外出レクでは何処がいいかなど気楽に話し合える機会を作り、職員のモチベーションアップに繋がっています。年2回のセンター長による面談があり、職員の思いや悩みなど聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対して、トレーナー制度を取り入れている。また研修への参加や勉強会を行い、サービスの質の向上に繋がるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加。また外部研修を通じて、同業者との交流を図る機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。またご入居後も、お話を伺う機会をよく持ち、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接で、ご家族様が困っておられる事・不安に思っておられる事等お聞きし対応している。ご入居後もご面会時等に日常生活のご様子をご報告し、ご要望等お伺いし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用される際は、出来る限りご協力出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物等、家事を積極的にして下さっている。また会話の中から、色々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活のご様子等をご報告し、ご家族様とコミュニケーションを取るように努めている。またご家族様と過ごされる時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親類やご友人もご面会に来られている。ご自宅へ帰られたり、お墓参りにも出かけられている。電話の取り次ぎも行い、馴染みの方との関係も持って頂いている。また来訪して頂きやすい雰囲気作りも心掛けています。	買物に出掛けた際に自宅を見に行ったり、行きつけの美容院では馴染みの人との再会を楽しむ機会となっています。帰宅願望の強い方には家族と相談して希望に沿ったり、親類や友達の来訪でお喋りを楽しんでもらうなどしています。また、要望があれば家族や知り合いからの電話の中次ぎや、葉書を出すなどの支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を把握し、孤立される方のように配慮している。日常生活の中で自然に関わり、支え合っている。またリビングでの団欒を心掛け、一つの家族のように生活されている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからの、ご相談等はほとんどないが、今後そのような事例があれば、配慮していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご希望をお伺いするように努め、支援している。	入居時には、家族から好きな事や履歴など出来るだけ多くの情報を得て意向の把握に努めています。意思疎通の困難な場合は日々コミュニケーションを取る中で、表情や行動から意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中からや、ご家族様からのお話・センター方式等活用し、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆様ご自分のペースで過ごしておられる。ちょっとした変化にも気付いていけるよう、日々留意し介護支援経過記録や、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング実施。カンファレンスやアセスメントも定期的実施。ご家族様の意向もご面会時等にお伺いするよう努めている。またご本人からもご希望をお聞きするよう努めている。	利用者、家族、職員、医師の意見などを反映してケアプランを作成しています。毎月モニタリングを行いプラン通りのケアが出来ているか記録し、再確認しています。3ヶ月毎にカンファレンスを開き評価し更新や見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録にケアプランを実施したら印を入れている。申し送りノート等を活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院の付き添い等お一人お一人のニーズに対応出来るよう支援している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、近隣のお店での買い物等地域との交流をして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診を受けられている。また医師との関係構築に努めている。	かかりつけ医は入居時に希望を聞き決めています。2週間に1回かかりつけ医の往診があり、日常の健康管理は法人の看護師の協力もあります。夜間の急変時なども協力医に相談が可能です。緊急搬送などの対応がなされています。希望があれば、歯科医、訪問マッサージの受診が可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はDSの看護師が勤務しているので、特変あれば相談したり診て頂いたりし、指示を仰いでいる。また提携病院にも電話等で相談し指示を仰ぎ、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はカルテを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等を確認して頂いている。また往診時等に相談や助言を頂き連携を持つよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご面会時や近況報告(月1回)や電話時にご利用者様の様子をお伝えしている。また勉強会を行い、知識を深めるよう努めている。	契約時には事業所方針を説明し、重度化に至っては他施設への紹介も含めて事業所の出来ることや出来ないことなど家族に説明をしています。ホームとしては重篤で看取りに近い経験があり、家族や医師との話し合いを重ねて対応しています。今後に向けてマニュアル作りなどを進め、家族などの意向に沿える体制づくりに努めたいと考えています。運営推進会議や家族会でも伝え職員学習の機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練実施。利用者様も参加されている。	消防署の協力のもとに年2回避難訓練を行っています。ホーム独自でも訓練を行い、利用者や自治会、地域の方と一緒に夜間想定で行われています。学区内の高齢者の避難場所になっており、ホームのフロアを提供する予定となっています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心掛けている。またお一人お一人のお話をゆっくりと傾聴する時間を持つよう努めている。	人生の先輩であることを意識し、丁寧に尊重する姿勢で接するように心掛けています。不適切な対応や言葉掛けがあれば、その都度注意し、又会議でも職員間で言葉遣いについて再確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択して頂けるような言葉掛けを心掛けています。また水分補給時等お好みをお聞きするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にした支援を努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の着替えの服を選んで頂くことにより、おしゃれを楽しまれている。ご自分で選ばれない方にも、身だしなみに留意し対応している。月1回訪問理美容に来て頂き、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理して頂く機会を持っている。メニューのご相談をしている。盛り付けや食事の後片付けもお手伝いして下さる。職員は利用者様と共に食事をしている。	利用者には、皮むき、米洗い、盛り付けや後片付けなど、出来ることを見つけ積極的に関わってもらっています。職員も一緒に食事を取り、会話を弾ませた楽しい食事時間となっています。移動パン屋が来たり、おやつ日が設定され、時には外食や出前を取るなど利用者の要望に沿いつつ豊かな食生活が送られるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はチェック表に記入し把握している。野菜を沢山使用した食事の提供を心がけている。またお一人お一人の体調や状態に合わせた食事や介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアされている。また介助が必要な方は介助にて口腔ケアを実施している。夜間は義歯お預かりし、義歯洗浄剤を用いて洗浄し、清潔保持に努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方は、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄をして頂けるように支援している。	個々の利用者に応じた支援を行っており、尿意の無い方でも排泄チェック表を活用、トイレレへ誘導を行い排泄の自立に向けた取り組みに努めています。布パンツで出来る限り過ごしてもらえよう失敗を減らすための工夫をし、利用者にとってより快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を摂取して頂き便秘の予防に努めている。また体操等体を動かす機会も持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のペースに合わせ、その都度声掛けを行っている。午前・午後共に入浴して頂けるよう配慮している。	毎日入浴出来るように準備し、希望に合わせて午前、午後とも入浴が可能です。入浴は2日に1回を目処にしていますが、拒否傾向にある人には家族に説明し、職員二人対応などで気持ちよく入浴してもらえよう支援しています。時に柚子湯を取り入れ楽しんでもらう事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温に配慮している。リビングで傾眠されている方には、声掛け行い居室でゆっくり休んで頂くよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテにお薬の説明書を挟み、いつでも確認出来るようにしている。服薬の有無は一覧表で、確認出来るようにしている。服薬変更時は申し送りノート等で情報を共有している。排便状況に応じ、下剤の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回出前の日・おやつの日設定。お誕生日会等楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年1回日帰り旅行実施。ご家族様にもお声をお掛けしている。祇園祭の鉾見学(ドライブ)等外出する機会を持って頂いている。また近隣へ買い物する機会も持って頂いている。散歩や外気浴も行っている。またご家族様との外出される機会も持っておられる。	天気が良ければ外に出て東福寺の景色を満喫し、買物を兼ねたスーパーへのドライブや、眼科治療には徒歩を取り入れて受診に行くなど、様々な工夫で外出機会を増やしています。また家族会で梅小路や外出の企画をして、家族と一緒に外出を楽しめるように支援をしています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持っている方もおられる。買い物時、ご自分で支払って頂く機会も持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話をおかけしお話されている。また、ご家族様からの電話も取り次ぎお話しされている。手紙届いている際は、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調節。エアコンも効きすぎないように配慮している。廊下には皆様の写真や作品を飾っている。リビングとキッチンが面しており、調理の匂いや音等の生活感も感じて頂いている。	窓からの眺めは四季が感じられ、昔ながらの格子戸や障子が使われ落ち着いた空間を作っています。個々のその時の気分で思い思いに過ごされる様に、テーブルやソファの配置にも工夫されています。テレビの音も控えめにして会話が弾むようにし、ユニット間の行き来で利用者同士のふれあいが育まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士、座って頂けるよう座席の配慮を行っている。ソファやイス等ご自分のお好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の物やご自宅で使い慣れた家具や装飾品等をお持ちになられている。	家族に使い慣れた物を持って来てもらう様子を掛けています。仏壇を持ってこられたり、家族の写真や、手造りの折り紙の作品等を飾り、居心地良く暮らせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人が分かりやすいように、居室やトイレに目印をつけている。建物内バリアフリーであり杖や押し車を使用し、各自の身体機能を生かして過ごされている。		